

ニュースレター第12号をお届けいたします。今年最後の号は樋野先生とお茶の水メディカル・カフェ in OCCの責任者でお茶の水クリスチャンセンター(OCC)の副理事長 大嶋先生からお言葉をいただきました。

『丁寧な大局観』～ OCC カフェの心得 ～

樋野興夫 (順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長)



今年(2023年)も終わりである。時の経つのは早いものである。この度、山崎智子(まどろむ文鳥)先生から、原稿を依頼された。

2023年の大きな思い出は、10月31日、【韓国のミョンジ(Myongji)大学での第1回 メディカルカフェ in ソウル：樋野興夫博士招待】に招待された】ことである。平田尚子(喜びと愛をもって橋渡しするラクダ)先生は、来年(2024年)『1周年記念シンポジウム』を開催される。まさに『速効性と英断』である。

今回の『韓国の旅』には、『水戸黄門の「助さん & 格さん」』でなく『モーゼの「アロン」&「フル」』(出エジプト記17章10～12節)の『青木美由紀(アライグマ)氏 & 森尚子(春風のようなコリラク)氏』が同行された。ただただ感謝である。『日本と韓国の懸け橋＝OCC カフェ』を実感する『人生の忘れ得ぬ貴重なソウルの旅』となった。

もう一つは、12月6日 高橋謙三(カンガルー)氏によって企画された【『樋野先生たびの会』5周年記念『屋形船の夜』】である。浅草の吾妻橋乗船場で乗船し、お台場・スカイツリーコースであった。久しぶりの『カラオケ大会』ともなった。

さらに、12月21日【樋野先生 クリスチャン新聞に下記、掲載されています。
<https://xn--pckuay016a7c1910dfvzb.com/?p=43622>】とのメールが『いのちのことは社』の宮田真実子氏から届いた。大いに感動した。

(次ページに続く)

(前ページより)

『目的は高い理想に置き、それに到達する道は 臨機応変に取るべし』(新渡戸稲造 ; 1862-1933)の教訓が鮮明に蘇る 2023 年であった。

そして 2023 年の締めくくりには、お茶の水メディカル・カフェ in OCC の 11 周年記念&クリスマスコンサートが催された。ゲストのゴスペルフォークのシンガーソングライター、三上勝久様はご自身が胃がんを患い、その後妹さんも膵臓がんを患い、日々を濃密に生きることを唄にされ歌声に魂が震えた。息子さんと成増教会の岡田様の演奏も素晴らしく感動した。驚くべきことは、本業は食品会社の社長さんとのことで、人を笑顔にすることで充実して生きられていた。大嶋先生との対談もグリーフを深く語り合う良い機会となった。

メディカルカフェ 11 周年とメディカルカフェクリスマスに寄せて

OCC 副理事長 お茶の水メディカル・カフェ in OCC 責任者 大嶋重徳

2023 年 12 月にメディカルカフェ 11 周年とメディカルカフェクリスマスとして、ミニコンサートと樋野先生と私の対談をカフェの時間の前に持ちました。また 12 月は樋野先生と共にメディカルカフェを続けてきてくださった榎原先生が天にお帰りになった季節です。樋野先生には、榎原先生の思い出を話していただき、榎原先生を偲ぶ時を持つことが出来ました。

ミニコンサートでは、三上勝久さんをお招きし、息子さんのサククスによるクリスマスソングの演奏もあり、一気にクリスマスの空気感を味わうことが出来ました。また三上さん自身が 10 年前から胃がんを患った経験を持ち、その後もいろんな所への転移を経験されてきた方です。その心情を歌にされ、同じく三上さんの妹さんを癌で天に送られた時の歌詞には私自身も涙をせずにはいられませんでした。また心を強くもって生きることへの励ましも頂きました。

また樋野先生との対談は、爆笑の渦が起こり、樋野先生のカラオケの持ち歌もお聞きすることが出来ました。「人前で歌う」ことで病気に悩むことから一步踏み出せる勇気も与えられたように思います。また「喪失感の苦しみにどう向き合えばよいのか」とお聞きした時に、樋野先生が「それは分からないね」と言われたことも印象的でした。すべてが分かる訳では無い。分からないことを抱えながらも、その分からないを大切にしながら歩いていくことの大切さを教えられる機会となりました。

12 月にご参加の皆様
には三上様から CD の
プレゼントをいただき
ました～

